令和7年1月14日

世田谷区立若林小学校
校長様

令和6年度　学校関係者評価委員会のご報告

世田谷区立若林小学校
学校関係者評価委員会
委員長

学校関係者評価委員会では、児童、保護者、地域に行ったアンケート結果より、分析・評価を行い、改善方策を検討いたしました。次年度も、子どもたち・保護者・教職員の皆さま・地域の皆さまに愛される若林小学校であることを願い、下記のとおりご報告申し上げます。

記

＜アンケート調査の概要＞

1.アンケート調査実施日

児童　　令和6年11月12日（火）　～11月20日（水）の間に実施
保護者　令和6年11月9日（土）　～11月20日（水）の間に実施
地域　　令和6年11月9日（土）　～11月20日（水）提出

2.実施・回収の方法

児童・保護者　　電子データにて実施・回収
地域　　封筒に入れて配布、郵送にて回収

3.アンケート回収結果

以前の紙面でのアンケートでは、9割以上の回収率でした。WEB 回答になってから昨年度は半数ほどの回収率となっていましたが、今年度は6割を超える回収率となりました。アンケートをより多くの方が回答することは、評価をより正しく、より良くし、子どもたちのより良い学校生活に寄与することになります。回収率の更なる改善に向け、保護者への声掛けなどの工夫を引き続きお願いします。

◆調査対象者		◆回収数(回収率)	
児童（5年生・６年生）	184名	178名	（97%）

保護者（全学年：児童数）	562名	348名	（62％）
地域	53名	32名	(60％)

1. 重点目標について

【学びの基礎・基本を身に付け、主体的に学習する児童の育成】

「吉田松蔭のことばを朗誦する取組(若小朗誦)を知っている」との保護者への設問に対し、「とても思う」「思う」を合わせた肯定的評価が９割近くあり、児童に対する「わたしは若小朗誦にしっかりと取り組んでいる」の肯定的評価は昨年度より若干下がったが7割以上ある。取組の周知も児童の取組み方も評価ができる。また児童への「わたしは読んだ文章の内容がわかる」との設問に対しては、肯定的評価が8割を超し、昨年度より上がったが、保護者に対する「読んだ文章の内容を理解している」との設問に対する肯定的評価は昨年度とほぼ変わらず5割程度しかない。読んだ文章の理解について、保護者の「あまり思わない」「思わない」という否定的評価もまだあることから、一層の対応をお願いしたい。「家庭で宿題などの課題に自ら取り組んでいる」との保護者への設問、「わたしは家庭で自らすすんで宿題や課題に取り組んでいる」との児童への設問に対し、昨年度より保護者の肯定的評価が昨年は8割以上あったのが、7割に届かず、児童についても昨年より減って、6割ほどとなっている。これは設問の文言をより主体性を持たせた「自ら」、「すすんで」ということばが設問に入れられたためであろう。引き続き対応、ご指導をお願いしたい。

【規範意識を身に付け、自分も周りの人も大切にする児童の育成】

あいさつについては、今年度は設問に「すすんで」ということばが入ったことにより、保護者の肯定的評価は昨年8割あったが、今年度は7割になり、地域は昨年8割強あった肯定的評価が、7割に届かなかった。しかし、児童は昨年と同様8割近くある。地域の肯定的評価の減少は、児童と接する機会が多くなり、評価する機会も増えたことが影響したのだろうか。引き続きご指導をお願いしたい。

【体を動かすことが好きで、目標に向かってねばり強く取り組む児童の育成】

保護者に対する設問「子どもは体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」、「学校では、健康の増進や体力の向上に取り組んでいる」の肯定的評価は昨年度より若干減少したが7割弱ある。児童への設問「わたしは体力作りに、目標をもって取り組んでいる」の肯定的評価が昨年度と同様8割近い。近年ますます影響の大きい猛暑の危険性を回避するため、校庭での体育授業や水泳の授業を制限せざるを得ない状況のなか、体力の向上や粘り強い取組は困難を極めると感じるが、様々な工夫をしながら引き続きご指導をお願いしたい。

【学校や地域の特色を踏まえた魅力ある教育活動の推進と、「世田谷杜の学び舎」における取組の充実】

保護者に対する設問「本校は近隣の小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」の肯定的評価が昨年度より上がり6割となった。児童に対する同様の設問に対する肯定的評価も若干上がった。「学び舎」としての活動は高学年が中心となるのであろうが、低学年の保護者にも少しずつではあるが、「学び舎」の活動の理解が進んできたのであろう。引き継ぎ情報提供に努めてほしい。

今年度からの新しい設問「学校では地域と連携した授業を積極的に行っている」に対する肯定的評価は7割近くあり、概ね評価されている。児童に対する設問「地域や地域の人と関わる学習に意欲的に取り組んでいる」の肯定的評価は6割ほどあるが、否定的評価も3割ある。コロナ禍を経て今年度より地域の人材の活用が本格化されてきていることもあり今後に期待したい。地域に対する設問「学校では『若林サミット』をはじめ、地域と連携した授業を積極的に行っている」の肯定的評価は9割を越え、「とても思う」との回答が7割あり、地域は取組に対し高評価をしている。

【「なりたい自分」につなげるキャリア教育の充実】

キャリア教育に対する保護者への設問の肯定的評価は6割程度であるが、「わからない」との回答もまだ多いなか、評価は悪くない。児童への設問に対しては、「区立中学校に関する情報が提供されている」の肯定的評価が5割程度しかないが、それ以外は昨年度より若干上がり、8割近い肯定的評価がある。「キャリア・パスポート」の作成、活用がさらに進めばより高い評価につながるのではないか。

２.「キャリア・未来デザイン教育」で実現する・質の高い教育の推進

【学習指導】

児童の肯定的評価は、若干ポイントが下がった項目もあるものの、全体的には80%～90%の高い評価を維持している。

「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」は保護者、児童ともにポイントが下がっているが、これはICT教育が浸透し、さらに黒板やプリントを使うことが減ってきているための評価ではないかと思われる。

次項目の、「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」との項目は肯定的評価が約8割と、昨年同様に高評価を得ているため、先生方のタブレットを活用した授業の充実が評価されたものと思われる。

【生活指導】

今年度も地域からの肯定的評価は9割と、高い評価を得ている。保護者についても７割以上の肯定的評価を維持し、保護者の立場から子どもたちが規範意識を持って学校生活を過ごしていることの評価と思われる。

児童においては前年度同様、肯定的評価が８割を超え昨年より否定的評価が減っており、先生方が一人ひとりに目を配り、熱心にご指導されている結果だと思われる。

【学校行事】

保護者において、「学校行事は子どもにとって楽しい」「子どもにとって達成感がある」の項目は、学年差はあるだろうが昨年までと同様、高評価である。「本校は子どもの意欲を大切にしている」の項目については、保護者全体としての肯定的評価は82%で昨年より若干下がっているものの概ね高い評価が続いている。地域においても、「学校行事の内容は充実している」の項目は97%と高い評価が続いている。

また、児童においても各項目とも昨年とほぼ同様の高評価が出ている。高学年、特に6年生は学校の中で最も行事が多く、また全校行事では大きな役割を担うことから、意欲をしっかりもたせることは大切である。学校では行事に際し、一人ひとりにめあてをもたせたり事後の振り返りをさせたりしながら、取り組む過程を大切にしている。引き続き個々の児童の思いや願いに寄り添った丁寧な対応をお願いしたい。

【キャリア教育】

キャリア教育は世田谷区としても本校としても重点目標に掲げているものだが、具体的な内容や成果がなかなか見えにくいところである。保護者においては、肯定的評価が「教員は子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」62%、「子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」54%、と他の項目に比べると数値はまだ低く、「わからない」も横ばいであるが、経年でみると全体的に少しずつ上向きになってきている。今年度は「キャリア・パスポート」を学期ごとに家庭へ持ち帰り内容を保護者と共有するなど、学校の取組に工夫がされており、その結果キャリア教育への理解が緩やかに進んでいると思われる。行事をはじめ様々なキャリア教育活動をこれからも充実させるとともに、その取組や成果について継続的に発信してほしい。

児童については「生き方や将来について考える授業」「目標をもちその実現に向けて努力している」の項目については肯定的評価が昨年より上がり、ともに70%を超えている。一方で「区立中学校に関する情報が提供されている」の項目では、肯定的評価が昨年よりやや下がっている。高学年児童は中学への進級を控えており、より多くの情報を必要としているということが考えられる。一人ひとりの思いや願いを丁寧に把握し、ニーズに合った情報提供に努めてほしい。

3．地域・保護者との連携・協働による教育

【学校・保護者・地域との連携】

保護者への設問「地域の人や施設を教育活動に活かしている」は保護者からは肯定的な評価が76%、昨年度とほぼ同様。

地域への設問「地域の人や施設を教育活動に生かしている」は肯定的な評価が84%で、昨年度は100%であった。「わからない」が昨年度ゼロ%あったが、少し増えた。

保護者への設問「本校は地域の活動に協力的である」は肯定的な評価が81%、「わからない」は昨年度より少し増えた。

保護者への設問「本校は地域に情報提供しているは、71％と肯定的な評価。「わからない」は昨年度とほぼ同様。

保護者への設問「学校では地域と連携した授業を積極的に行っている」は肯定的な評価が66％、「わからない」は21％。前年は質問項目なし。

学校の教職員は、コロナは5類扱いになったものの、猛暑の長期化などの異常気象、そしてインフルエンザなどの感染症の季節外れの流行などに対処しながら、学校教育活動を苦労しながらも軌道に乗せつつ進められている状況である。地域と協働・連携する活動にも大変協力的であった。盆踊り大会、地域のまつり、ラジオ体操、敬老会。その他、地域諸団体が取り組んでいるイベントも開催サポートしている。大変良好な連携・協力のもと行われていることが保護者や地域の皆さまの意識の中に伝わっていることがアンケート結果に反映しているのではないかと思われる。

【学校運営委員会・学校協議会】

地域への設問「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」は肯定的評価が75％、昨年度とほぼ同様。地域運営学校の役割を引き続き発揮していってもらいたい。

地域への設問「学校協議会や合同学校協議会は役割を果たしている」は肯定的評価が72％で、昨年度より多少下がった。今年度「学校協議会」を「若林サミット」に変えて地域学習への意見交換の場にシフトしたことがわかりにくく多少影響していると思われる。

【学校教育への家庭からの連携】

保護者への設問「家庭では、よくこどもと話をしている」は肯定的評価が96％、昨年度も同様。

児童への設問「わたしは、家族とよく話をしている」は、肯定的評価が94％、昨年度とほぼ同様。

家族と子どものコミュニケーションができている家庭が多いということが学校生活と学校での学習内容に大変良い効果をもたらしているものと思われる。

家庭も学校での教育の向上に連携した役割を果たしていることがアンケート結果に反映しているものと思われる。

４．信頼と誇りのもてる学校づくりについて

【学校運営について】

保護者、地域からのアンケートの回答から、「学校運営」について述べていく。

まず、保護者からの回答で「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている」は「とても思う」、「思う」の肯定的な評価が78％で前年度と比べ、4ポイント上がっている。今年度は、学校の重点目標を幅広い教育活動で発信できたことが大きい。たとえば、地域と連携した教育活動「若林サミット」、ICT を活用した探究学習が幅広い教科で行われているのを学校公開で見せられたこと、運動会では各学年、趣向を凝らした表現活動、また「騎馬戦」が復活し、勝敗の行方を保護者も楽しめたことなどが挙げられる。保護者は子どもの

姿を通して、学校の重点目標を感じ取っている。今後も子どもたち一人一人が自己発揮をし、何事にも主体的に取り組む教育活動を続けてほしいと願う。地域からの回答では、「学校の重点目標が明確である」が91％で前年度と比べ、9ポイント下がっているものの、9割が肯定的に受けとめている。また、「地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している」が88％で前年度と比べ、16ポイント上がっている。学校が地域と協働して子どもを育てる姿勢が反映されていることが分かる。

【教職員について】

児童、保護者からのアンケートの回答から、「教職員」について述べていく。

児童のアンケートの回答では、「先生達は、丁寧に指導してくれる。」で肯定的な評価が84%で昨年度よりも2ポイント上げ、８割を超える高い数値となっている。また、「先生たちに相談できる。」は58％で昨年度よりも6ポイント下げている。先生方は子どもたちのために一生懸命に指導にあたっていると思われる。ただ、アンケートに回答した対象学年の５、６年生は思春期を迎え、自分の思いを通したい気持ちと周囲と折り合いを図ることが求められる難しい時期に入っている。そのため、必ずしも肯定的な回答結果が出るものではない。また、５、６年生の子どもたちは社会に向けて経験を重ね、成長している途上の時期である。今回の回答結果に一喜一憂せず、学校と保護者とで連携を図り、子どもたちの成長を見守ることが大切だと考える。また、保護者からのアンケートの回答で「本校は、丁寧に指導している。」は肯定的な評価が80％で昨年度と同じ8割近い高い数値となり、「本校は、子どものことを相談しやすい。」は73％で昨年度と同様、7割を超える高い数値となっている。保護者から学校への信頼は高いといえる。

【学校からの情報提供について】

保護者、地域からのアンケートの回答から、「学校からの情報提供について」を述べていく。保護者からのアンケートの回答では、「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」では肯定的な評価が88％で前年度と比べると2ポイント上げている。学校は、保護者連絡チャンネル「すぐーる」や学校ホームページ、学校便り等で細かく情報提供できている。地域からのアンケートの回答では、「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」では肯定的な評価が97％で前年度と比べると3ポイント下げているものの、高い数値となっている。

一方、「『学び舎』の区立中学校について情報が提供されている」は、保護者からの肯定的な評価が37%、昨年度と同程度となっている。２月に、区立中学校は中学生の活動の様子を動画にまとめ、入学を間近に控える６年生に伝える取組をしている。そこでは、６年生が中学校での生活を思い描き、その過程で思い浮かんだ質問を中学生に伝え、回答を得る場となっている。６年生が中学校への関心を高める時期に本アンケートを実施すれば、保護者からの肯定的な評価が高まることが予想される。ただ、新１年生を受け入れの準備を始める時期が年度末になるため、情報提供のピークもずれ込み、アンケートの結果に反

映されていない。また、地域からの肯定的な評価は69％で前年度よりも7ポイント下がっている。地域は、保護者よりもホームページを見る機会が少ない。その中で７割近くの評価は高いものだと思われる。

「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。」は、保護者からの肯定的な評価が93%で前年度より2ポイント上回っている。参観できる機会が増え、子どもの実際の姿が見られているためだと思われる。地域からの肯定的な評価は84％で前年度よりも2ポイント上回っている。保護者と同様、参観できる機会が増えたためだと思われる。

「本校はホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」は、保護者からの肯定的な評価が81％で前年度より9ポイント上がっている。今年度はホームページで子どもたちが活動した様子が分かる投稿が増えたことが大きい。情報発信にも気を配る学校の姿勢には感謝申し上げたい。地域からは84％で前年度よりも8ポイント上がっている。こちらも学校からの情報発信が増えたことが要因だと思われる。

5.教育環境の整備について

【保護者の評価】

・「本校は安全な学校づくりを進めている」

⇒肯定的評価79％

・「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」

⇒肯定的評価89％

・「本校は自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」

⇒肯定的評価80％

「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」が1ポイント上昇し「本校は自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」も1ポイント上昇した。

「本校は安全な学校づくりを進めている」の項目は肯定的評価が1ポイント下がったが未だ8割近くの肯定的評価があるため学校の安全性を示すには十分な数値であると考える。

【地域の評価】

「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」

⇒肯定的評価97％

「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」

⇒肯定的評価88％

昨年同様、両項目とも高い評価を受けている。ただ否定的評価及び『わからない』との回答も若干あることから、より詳細な地域への情報提供が必要だと考える。

6. 全般について

・「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」は保護者から87%と高評価を得ている。児童の「学校生活は楽しい」に対する肯定的評価は86%で昨年より6ポイント上がった。一方で「学校が好き」に対する肯定的評価は70%で5ポイント下がっている。学校生活において、子どもの話す内容や表情をみて汲み取っている保護者は多いと思われる。多くの児童が「楽しい」「好き」に向かっていけるよう、学校生活の様々な場面で学ぶ事が楽しいにつなげていくことが大事である。

・「本校の教育活動に満足している」に対する肯定的評価は77%と昨年とほぼ同様の結果となっている。学年による評価傾向に違いがあると思われるが、教育活動について目指す目標と達成に向けた取組への理解が肯定的評価につながっている。引き続き学校の目標や活動状況、成果などの情報提供をお願いしたい。

・「子どもは家庭で自主的に学習をしている」に対する肯定的評価は52%で昨年より6ポイント下がった。また「子どもは、家庭で宿題などの課題に自ら取り組んでいる」に対する肯定的評価は65%で昨年より21ポイント下がった。
・児童の「私は家庭で宿題や e-ラーニングでの学習をしている」に対する肯定的評価は62%で昨年より若干上回ったが、「わたしは自らすすんで宿題や課題に取り組んでいる」については昨年を下回った。
　宿題や課題は家庭学習の習慣づけのためにあるものである。量や内容に学年差はあるが、宿題や課題の目的、取組の工夫などが保護者にも伝わることで肯定的評価は改善されるのではないだろうか。

自己評価の方法・結果等について

　自己評価の方法や内容については適正になされている。
　ほとんどの項目が高評価であることから、教職員が昨年よりもさらに、通常の教育活動に戻り、充実し、質の高い教育活動を行っていることがわかる。

I.重点目標である「読んだ文章の理解」については「とても思う」「思う」との回答が昨年より増え「あまり思わない」との回答が減っている。「あいさつの取組」、「体育学習の取組」については、「あまり思わない」との回答も若干あるが、「とても思う」との回答も多くある。「魅力ある教育活動の推進と世田谷杜の学び舎における取組の充実」についても「とても思う」「思う」との回答がほとんどである。「キャリア教育の充実」についても大半が「とても思う」「思う」との回答である。

II.「キャリア・未来デザイン教育」で実現する質の高い教育の推進では、「とても思う」「思う」を合わせた肯定的評価はどの項目も昨年同様に高い。しかし、若干「とても思

う」との回答が減少している。

III.地域・保護者との連携・協働による教育では、「あまり思わない」「思わない」との回答がほとんど見られず、今年度からの取組である「若林サミット」がうまく機能し始めていることが早くも実感されているのであろう。

IV.信頼と誇りの持てる学校づくり、V.安全安心と学びを充実する教育環境の整備の評価のなかでは、各項目とも「とても思う」「思う」を合わせた肯定的評価は昨年と同様に高い。また「とても思う」との回答が昨年より大幅に増えている項目が多い。

以上

次年度に向けて

戻りつつあった昨年の学校生活から、本来の学校生活に戻った今年度において、本校の教育目標『「至誠而不動者未之有也」誠を尽くす若林の子ども』のもと重点目標における様々な取組によって、一人ひとりの個性を輝かせ、創立153年の伝統と校風を継承する児童が育成されつつあります。

近年の異常気象による屋外での活動の抑制や、児童数の増加に伴い、活動内容の変更や行事の開催方法などさまざまな工夫を行い、子どもたちの活動を試行錯誤しながら実現させていることがよく理解できました。

次年度以降も行事の開催方法など試行錯誤が続くものと考えられますが、知・徳・体の調和ある教育を実践していただき、子どもたちとともに、学校、保護者、地域が一丸となって、誰もが誇りに思える若林小学校を創っていきましょう。